

大阪府立たまがわ高等支援学校 平成 27 年度第 2 回学校協議会の概要

1. 日 時 平成 27 年 11 月 16 日（月）午後 1 時 30 分～ 3 時
2. 場 所 大阪府立たまがわ高等支援学校 会議室
3. 出 席 協議会委員 5 名 事務局員 9 名
4. 内 容

〔Ⅰ〕 校長挨拶

〔Ⅱ〕 報 告

- (1) 学校経営計画進捗状況
- (2) 授業アンケート等について
- (3) 進路状況・進路指導について
- (4) 生徒指導(支援)について
- (5) 第 8 号研究紀要について
- (6) 創立 10 周年記念事業について
- (7) その他

〔Ⅲ〕 協 議

議事録（抄録）≪議事録中、●は協議会委員、○は事務局委員です≫

〔Ⅰ〕 校長挨拶

校長 本日は本当にありがとうございます。

学校では、1 年で最大行事のたまがわフェスティバルに、今年は創立 10 周年の記念行事も加わって、大変ハードな内容を行って参りましたが、ともに無事終了しました。生徒も職員もオーバーワーク気味でしたが、乗り切ることができました。みなさまにも、いろいろご支援いただき、どうもありがとうございました。そして、今、気がつけばもう 11 月の職場実習を迎えることとなりました。企業のみなさまのご期待に応えたいと、また気持ちを新たに頑張っているところです。今日は年度当初にお知らせしました取り組みについて、進捗状況をご報告いたします。

教頭 本日の進行は、教頭が務めます。よろしく願いいたします。それでは次第に従いまして、(1)平成 27 年度学校経営計画進捗状況について校長から説明いたします。

〔Ⅱ〕 報 告

校長 それでは、(1)平成 27 年度学校経営計画進捗状況についてご説明いたします。

まず、たまがわランドについてです。たまがわランドにつきましては、すでに 2 回、プレオープンをいたしました。1 回目は園芸分野・販売分野が、2 回目は園芸・福祉・清掃の 3 分野が活動しました。園芸がよく頑張ってくれています。野菜の販売だけでなく、野菜の収穫体験とか、ミネストローネを作っておもてなしとか、よく頑張っています。2 回目の福祉のハンドケアも好評でした。清掃分野は 2 回目実施の前日に、3 コースに分かれて、たまがわランドの告知をしながら、学校近隣の清掃活動をいたしました。また、1・2 回目とも、オフィス分野の生徒が告知のチラシなどを作ってくれました。

次に今後の予定です。たまがわフェスティバルが無事に終了いたしましたので、各分野、たまがわランドにシフトチェンジしています。1・2 回目は土曜日の実施など行いましたが、次は平日、普段の授業の中での実施を計画しています。

寒くなりますので、バックヤードがうどんの販売を、福祉分野が高齢者施設へ出向いてのハンドケアの実施をと暖かい計画を進めています。

食品生産分野と販売分野がコラボして、パンと飲み物のセットでの提供を行う予定です。また、販売する際、レジはオフィス分野の生徒が行うことなども考えています。

次に府立高等支援学校4校間の連携と、共生推進教室の円滑な移行についてです。大阪の高等支援学校は、平成28年に大阪市から移管されるなにお高等支援を含めた5校体制になりますが、10年目を迎えた本校が、これまで積み上げてきたノウハウを他校に伝達しているところです。各校が本校に度々お越しになっています。また、高等支援学校の連絡会もスタートさせています。既存のつながりも含めて、教務の担当者や養護教諭などが連携を深めています。

先日、11/7には、府立の共生推進教室設置校8校、自立支援コース設置校11校の実践発表会が、府の教育センターで行われましたが、そこに高等支援学校も参加し、本校も発表を行いました。500名位の聴衆がいらっしやる、盛況な会でした。共生・自立支援・高等支援への関心の高さが感じられました。

次に校内研修についてです。

本校では自立活動の時間について力を入れております。本校では今年、校時を変更し、朝と終わりに「自立活動の時間」を設け、自立活動の充実を図っています。その自立活動の時間の効果検証も兼ね、現段階では先進的な取り組みをしている教員の取組みの事例発表などを行いました。年度末には、総括も行う予定です。

部活動につきましては、入部率80%の目標は早々に達成しました。また参加率だけでなく、内容でも優れた成果を収めています。夏にバスケットボールが全国大会に参加しましたほか、秋のきのくに和歌山国体（第15回全国障害者スポーツ大会）にも、陸上・サッカーの生徒が参加し、特に陸上の参加者2名は、立派なメダルももらえる活躍をいたしました。今後も盛んに活動していく予定です。

会議時間の短縮につきましても、成果をあげています。11月にはまだ1度だけですが、長引きがちな職員会議を、勤務時間内の17:00までに終了することができました。運営委員会も15:30からの開催にするなど、会議の効率化を図って進めています。

教頭 何かご質問はございますか？ ないようでしたら、続きまして(2)平成27年度授業アンケートについて説明いたします。

校長 学校で行うアンケートに、授業アンケートと学校教育自己診断があります。授業アンケートは、去年までは自宅に持ち帰らせていましたが、今年からは、校内で行うこととしました。集計は教頭が行います。教員の評価育成に関わりますので、結果は非公開とされています。一方、学校教育自己診断は結果を公開します。協議会でも次回、結果を報告します。またHPにも掲載します。なお、自己診断のアンケートの内容については、ご家庭での会話を生む効果も考えまして、こちらは昨年までと同じ、持ち帰り形式で行います。

教頭 それでは、これまでのところで何かご質問等はございませんでしょうか？ ないようでしたら、続きまして(3)今年度の進路指導と進路状況を進路指導主事が説明いたします。

○ まず職場実習についてです。2年生は調度、実習に行っているところです。1年生は、今回が初めての実習で、今事前指導をしています。1年生は61名が職場実習へ参加の予定です。職種・事業所などについては、去年とほぼ同様、倉庫・バックヤードが少し増えていますが、大きな変化はありません。

2年生は63名、63事業所にお世話になります。全員がそれぞれ別々の事業所へ参加します。夏の開拓で新規に13社を開拓しました。そこで、重ならずに行けることになりました。実習内容では、清掃が7名と増えています。

3年生は日々数字が動いているところです。9名は確定、更に内々定などほぼ決

まっているものが多数という状況です。一方、結果が出なかった生徒の再実習や、最初の実習先が未定の生徒については、まだこれからというものもあります。未定4名、保留6名について、これからますます力を入れるところです。

● 内定が出ているところに、業種など何か傾向がありますか？

○ 職種などは、バラバラです。どこかに集中しているとかいうことはありません。福祉関係や工場での分別、飲食関係、販売関係など例年通りです。清掃や事務関係が少し増えた感じがする程度です。

教頭 他に何かご質問はございますか？ ないようでしたら、続きまして（4）今年度の生活支援部の取り組みについて生徒指導主事が説明いたします。

○ まず、生徒指導関係です。

いじめ対策委員会は、年2回、府教委からの指示で生徒にいじめ調査アンケートを取っています。1回目は6月に行いましたが、提出は0枚で、いじめに関わる情報はありませんでした。昨年度も同様です。

しかし、8月末には部活動内でいじめ事象が起きました。内容は軽度の暴力と差別発言でした。学校では、昨年度策定した「学校いじめ防止基本方針」に沿って対応し、府教委と連携しながら対応しました。具体的には、保護者への説明文書の配布や説明会の実施をいたしました。そのいじめ事象については現在は一定の解決が済み、経過をみているところです。

続けて、生徒会選挙についてです。

今回は例年になく立候補者が多く、7名の枠に対して16名が立候補しました。選挙では、東大阪市の選挙管理委員会から実際の投票箱・記載台をお借りして、実際の選挙に近い形での投票を行いました。

現在は、その選挙で選ばれた後期の役員が活動を始めております。

次は、教員の防犯訓練についてです。

夏季休業中に教員向けの不審者対応の訓練をおこないました。今年も河内警察の方に講師と侵入者役をお願いし、現実感のある訓練を行うことができました。

次に、たまがわフェスティバルです。

たまがわフェスティバルは、体育の部・文化の部ともに無事に終わることができました。文化の部では、今年は10周年の記念行事とあわせて、2日間の開催としました。1日目にクラブや学年、有志による舞台発表、2日目に、記念式典と模擬店等の一般公開を行いました。一般公開時の来校者は、昨年の約630人から、今年は約690人へ増えました。一昨年度は約590名でしたので、来場者数は年々増えています。

次に、部活動についてです。

部活動では、先ほどの校長の説明にもありましたが、チャレンジスポーツ部の陸上パート・サッカーパートが、和歌山での全国障害者スポーツ大会に参加して活躍しました。また、ラケットスポーツ部が共生推進教室設置校との交流試合を行ったり、剣道部が大阪の支援学校で初めて高体連の団体戦に出場したりするなど頑張っています。ダンス部も文化の部での舞台発表のほか、他のクラブの応援に出向くなどして活動し、どの部活動も、活発に活動しています。

最後に生徒指導案件についてです。

生徒指導案件では、暴力事象は以前に比べて減っていますが、コミュニケーション面での行き違いなどからのトラブルは今年も多々起こっています。

一方で、不登校や無断外泊など、丁寧な指導と心のケアが必要な案件が増えてきた印象があります。対応としては、外部機関等との連携を深め、子ども家庭センターや医療機関などとも連携をしています。

教頭 何かご質問等がございますか。ないようでしたら続きまして（5）『研究紀要たま

がわ第8号』について学習支援部が説明いたします。

- 『研究紀要』は第8号になりました。3年目から毎年発行してまいりました。今回は「10周年記念誌」として内容重視で編集を行いました。校外からも19の方に原稿を依頼するなどし、10周年を振り返る前半と、次の発展をめざす後半との2部構成で編集しました。発行部数は250部+αです。費用をかけずに本校について発信するものとして、すべて校内で作っています。送付先は、府内の各支援学校と共生推進校・自立支援コースの設置校などですが、多くの肯定的な意見が返ってきています。

教頭 何かご質問等がございますか。ないようでしたら続きまして(6)創立10周年記念事業について首席が説明いたします。

- まず、10周年の取組みにつきましては、委員のみなさま、本当にありがとうございました。お蔭様で、記念講演会、好評のうちに終えることができました。講演会では、パネルディスカッションの中で、卒業生のことも見ていただけてよかったと思っています。離職率については、よくないところもしっかり見て、次へとつなげて参りたいと思っています。

記念式典では、PTA会長様、大変お世話になりました。会長様に褒めていただいたことに、違わないよう頑張ります。記念品につきましては、大切に活用させていただきます。

なお、10周年の事業につきましては、校長先生のご方針のもと、若手教員が中心となって事業を進め活躍しましたことを申し添えます。

教頭 何かご質問等がございますか。ないようでしたら、ただ今から協議に移りたいと存じます。これからは、議事進行を委員様にお願いします。活発な意見交換をお願いいたします。

[Ⅲ] 協 議

- では、今後のたまがわランドの展開はどうなりますか。たとえば、今度うどんを販売なさいますが、どういうスケジュールで取り組まれますか。

校長 すべて、平日に実施する予定です。うどんの販売も、福祉のハンドケアも平日に行います。プレオープン、最初はPRが必要ということで、土曜日開催も行いましたが、たまがわランドは普段の授業の中で、普段の様子を外部の方にも見ていただく、参加していただくがコンセプトです。

- どんなふうに周知されていますか。

校長 生徒のチラシや、HP、また便りなどで、地元自治会のお力を借りて進めています。

- 校長先生のご期待ほどはできていませんが、自治会も努力しています。また、地域で農地を借りて、地域の中で学ぶ姿を、地域の方に見て欲しいという、校長先生のお気持ちはよく分かるのですが、農地を借りる手助けはなかなかうまく進みません。校内ではなくて校外で、外から見るができる場所で、生徒たちに学ばせて、外部の人間にも見える授業というのは、よいPRにもなると思います。そういう風にしたいのですが、なかなかうまくいきません。

- 制約がいろいろあるようですが、学校が、授業として生徒を外へ出す機会は大切です。ぜひ進めていただけたらと。

- 地域で生徒がリアカーを引いて、という姿は、生徒・学校だけでなく、地域にも効果が上がることだと思いますが。

- 生徒が大根を作って、スーパーで販売することができれば、またその姿をケーブルTVなどで放送してもらえたらと思います。校長先生のリクエストは良く理解しています。

- ここは、「気長に待つ」ですね。
校長 府の農政課や農家の方にお話を伺うと、単純な話ではないと理解しています。農家の方にご迷惑をかけない手段の工夫をと考えています。
- 以前には、ある小学校で450坪くらいの農地を農協を通して借り、小学校の先生が児童に大根など作らせる…ということができました。大根・じゃがいもなど作って、JAの支店が仲立ちして、老人ホームの方にプレゼントする…というようなことも行ったことがあります。児童が大根を持って老人ホームへ伺い、そこでは、農協の女性会が作ったおにぎりを小学生にふるまう。ご老人が小学校の生徒見て、ニコニコされている。とても良い笑顔をなさる。参加した人は、とてもいい光景だったとみなお話になる。校長先生の構想は良く理解しているので、今しばらく。
- たまがわの学科・分野とたまがわランドとの関係は？
校長 たまがわランドは、たまがわフェスティバル文化の部のミニチュア版です。分野の力の結集として、3学科6分野+2分野で何ができるかを考えています。また、たまがわフェスティバルは分野単位での行事ですが、たまがわランドでは、分野・学科間の横の連携を重視しています。
たとえば、プレオープン第1回・第2回では、園芸と他の分野・学科が連携しました。作物を育てている園芸は、他の分野との連携が取りやすいということもあって、プレで頑張ってもらいました。
分野によっては、制作するものの数ですとか、他の分野との連携で悩みがある分野・学科があるのも事実ですが、販売のレジにオフィスも参加するとか、オフィスが接客を行うとか、工夫を考えています。
産業基礎分野で、販売用の什器備品を制作するとか、小製品を作るとかも検討しています。分野・学科間での自発的なコラボが好ましいと思っています。
- 分野間で参加数が異なることもありますか。
校長 あり得ます。年間で、全5回くらいと思っていますが、その中で、各分野が2つか3つずつ参加してくれればいいと思っていますが、何がしかの差異は出ると思います。
- 分野・学科の回数もですが、生徒一人一人の参加という視点で見ること必要ではないかと思えます。
校長 参加しにくい分野もありますので、全員が必修の販売・清掃で調整をと考えています。
- ところで、ランドでは「ゆるきやら」も作りました。
● それは面白いですね。ところで、たまがわフェスティバルに戻りますが、フェスティバル文化の部の内容が年々進化していると感心しています。クッキーもおいしかったです。ただ「食品生産」の販売の行列など、もう少し少なくならないでしょうか。整理券の配布など、工夫できませんか。
校長 来年、工夫・改善を行います。
- なにわ高等支援も含めた、5校体制での連携は大切ですね。ところで、11月7日の実践発表大会の対象はどう設定されていましたか。
校長 中学生とその保護者がメインターゲットでした。予想は300人くらいでしたが、500人以上の来場者がありました。
- 実施対象は学校関係者だけでしたか？ また、今後毎年実施されますか？
校長 今年は、たまがわは「高等支援」として、5校を代表して発表を行いました。その後、各校などがブースを設けて説明会を実施しましたが、自立支援コースのところには行列ができていました。自立支援・共生推進とも大人気だと思いました。
- それぞれの受験資格は？
校長 とともに療育手帳が必要で、そこは同じです。

- ところで、この「ゆるキャラ」のデザインのイメージは？
- 校章にも使われています「くすのき」をイメージに取り入れて、生徒が考えたものです。
- 授業アンケートについて、昨年までは、家族の方と一緒に書いていたが、今年は学校でというのはなぜですか？
- 校長 今年、生徒自身のみでも行える力があると考えて、そうしました。生徒にはマークシートを提出したあと、質問用紙を家に持って帰ってもらうことで、去年までと同様に、家庭での授業・先生についての話題喚起もできると考えています。
- 授業は大切です。学校は授業が一番です。授業評価のアンケートは非公開ということですが、教員にはこのアンケートをどのように生かし、活用していくのですか。
- 校長 具体的な活かし方は結果も見て考えて行きますが、教員の評価、授業力の向上に生かします。
- 結果について、大学なら各教員にすべて返ってきますが、こちらではどうですか。
- 校長 授業評価のアンケートの様式が高校と同様なので、TTを反映しがたいものになっています。そのため、ざっくりとは見ることはできますが、各教員には対応しにくい結果になっています。
- 授業の精度を上げるために、研究授業もなさいますか？
- 校内公開授業週間などを設けて、初任者の研究授業のほか、全教員による全授業と自立活動の公開・相互参観を行っています。今年度は「支援教育・地域支援事業」とタイアップして、期間内の全ての授業と自立活動を外部公開するという取り組みも始めました。公開授業週間は、外部の方に普段着の授業を見ていただく貴重な機会でもあると考えています。
- 校長 授業評価のアンケートでは、その取り方なども工夫しています。去年まではすべて家に持ち帰って書いてもらっていましたが、今年は、高校などと同様に、生徒には学校で書かせます。
- 去年のアンケートで、たとえば数学について担当の先生が誰先生かまで、ポイントで書いてあったなら生徒も答えやすいでしょうが、教科名：数学だけだったので、そのように漠然と聞かれたのでは、生徒は答えにくいと感じました。そのあたり工夫をお願いします。また書かせる指導についてはどのようにされますか。
- 校長 書かせる指導については、恣意的になっても困るので、難しいところもあると理解しています。その上で、生徒たちができるだけ答えやすいように工夫して行きます。
- 回答のなかで、「あてはまる」は、生徒にとって答えるのが難しい選択肢かとも思っています。
- 質問項目の中で、1番は異質とも思いますが、いかがでしょうか。
- 校長 このアンケートには、基本になる教育委員会のモデルがあります。ここもそれに当たっています。1・2番は以下の質問に答えやすくするための、アイドリングの位置付けです。
- アンケートを書かせる日は、1日に集中させるのですか？
- 校長 学年ごとに工夫をします。
- 学校教育自己診断についてはいかがですか。
- 校長 学校教育自己診断については生徒用も持ち帰ってもらう予定ですが、うまくいくようなら、生徒用は学校でも考えています。
- アンケートの結果など楽しみにしています。
- ところで、3年生の就職率、今年も高くいけますね。
- 就職率や就職先について、生徒の所属学科と何か関係がありますか？
- 福祉のみ、資格の都合で関係がありますが、他の職種・就職先については、所属

学科・分野の属性より、生徒のマッチングを優先しています。相関関係はあまりないと言えます。

校長 在校生の保護者から見ると、学科が就職先に関係あるように見えがちですが、実際の就労についてはそうではありません。どの学科で学んでも結果は同じです。実習でもいろいろなことを体験させています。学科の学習も特定の就職先を狙っての内容ではなく、広く就労について学びながら、適職を見つけていくための内容になっています。

● 8月の生徒指導にかかわる保護者説明会は全保護者が対象でしたか？

校長 はい、対象は全保護者でしたが、参加者は12名でした。丁度、台風接近中の大雨の中での実施でしたので、参加者は少なくなりました。ただ、参加人数は少なかったですが、事象については重たくとらえて、丁寧に取り組みました。

● 事象の内容は、どんな内容でしたか。

校長 部活動内でのいじめです。不適切な言葉がありました。きっちりやらないといけない内容の言葉でした。内容は重大なことでしたが、加害者・被害者で話し合い、いい形では終わっています。

● 研究紀要の作成はいかがでしたか。かなり、分厚いですね。中身が詰まっていますね。

校長 校内・関係者で読むだけでなく、他の支援学校などにも配っています。開校当初の分野の立上げとかが、よく興味を持たれているところです。職業科・職業コースのある学校が開校されたり、開設されたりするときに、大変に参考になると喜ばれています。

● 先生方の努力のたまものですね。

● 印刷・製本。うまくできていますね。これも生徒のお仕事ですか。

○ 今回は教員がしました。元々は生徒の「流通サービス科・オフィス分野」の授業の一環として取り組まれていましたが、生徒の負担過重にならない方策を模索しながら、今後あり方を再検討していきたいと思います。今回は10周年の事業に間に合わすという納期がありましたので、やむなくという事情もありました。

● 10周年の振り返り、いい機会になりましたね。

● 記念講演会、マイクはちょっとでしたね。今後は、どうぞよろしく。

● パネルの卒業生、とてもしっかりしていましたね。もう少し時間があればもっとよかったですね。

● 校長先生の「たまがわの風」はどうされていますか。

校長 「たまがわの風」は、年間5～6回、大きなことを掲載したいなと思っています。日々のことは、別に校長ブログとして本校のHPで頻りに掲載しています。

校長 たとえば、記念講演会、式典のこと、どうぞご覧ください。大阪府のハートフル事業のサポート企業表彰のことも掲載しています。サポート企業の表彰は、5年以上にわたって、本校を支援してくださっている事業所に対しての府からの感謝を表すものです。開校以来いろいろとご協力いただいている事業所を推薦しています。

● ほかの学校などが推薦した会社も入っていますか？

校長 他の学校からももちろん、推薦があります。

● 企業実習についての、企業の理解は深まっていますか？

校長 理解は進んでいます。またまず雇用していただくのはとてもありがたいです。しかし、その後のノウハウがまだ充分とはいえません。就職先の数は増えていますが、その後の理解をどうしていただくか、ご理解を深めていただくことが今後の課題です。

● 離職率は、努力・協力について回るもの。たまがわでも試行錯誤の時期は高かったが、その後は安定へと向かっているように思います。

校長 生徒の希望で就労支援を行っていた時期の離職率は高かったです。マッチング優先の方針を変えてからは大きな崩れは無くなってきています。

- マッチングが重要ですね。それと、SOS のサインを見逃すな！ ですね。ご本人も、支援者もサインを出す。企業はそれをキャッチする、が重要ですね。
- 学校に行っている間は、親の気持ちもいろいろあります。また早く決めたいとの保護者の焦りもあります。しかし、働くのは本人。本人がどこにあってのかが大切ですね。また、仕事を続けて行くには、本人が「しんどい」ということができる方が、支援者かどうかですね。そのあたりが重要だと思います。

校長 保護者には、特例子会社とおっしゃる方、多いですね。

- 私も最初はそうでした。しかし今は、違います。会社が特例子会社かどうかより、仕事の内容がマッチングするかどうか大切だと思うようになりました。
- 「特例で社員です」と言われると、行かせたくなる。でも、ですね。また別に、ずっと同じ仕事が合う方と、変わるのが良い方がありますね。その会社の中で、同じ仕事しかない場合が良い方と、いくつかの仕事の中でローテーションや異動がある方が定着できる方がいます。
- それと、うちの場合は、卒業式のときに就労先が決まっていなくて焦りましたけれど、じっくりで、今は良かったと思っています。決まるのは遅かったですけれど、ずっと同じところで働いています。
- 特例子会社といえば、東京で立ち上げて、関西に進出してきてるところが増えていますね。職種は、清掃や事務補助に偏っていますが、関西に進出してきてるところが多いですね。特例子会社は、全国で400弱、うち、100社は東京に集まっています。そのため東京では人が集まらない。そこが関西進出の理由のようです。
そのようなわけで、特例の機会もあるかもしれませんが、そこばかりを希望されてもと思います。特例ではないが、小さな会社かもしれないが、いいところがたくさんあります。マッチング、丁寧なマッチングで、就労支援をと思います。
また別に、今は、会社の都合で辞めさせられる方は激減しています。法定雇用率のこともありますので、企業はやめてほしくありません。
今は、本人がしんどくて…が増えています。
- 会社の担当者がよく変わる会社は継続しにくいです。馴染んだ上司・支援者が変わられたことをきっかけにやめてしまうということがよくあります。

校長 企業の人事異動は仕方ありませんので、引継ぎを丁寧にさせていただきよう願って行きます。

- 一見できそう、ところが、担当者が変わると、ご本人困惑ということが多いです。できるだろうと思われて…です。実は前任者がしっかり支援なさっていたことが伝わってなかったりすることが多いです。

校長 貴重なご意見、どうもありがとうございます。時間がもう来てしまいました。今年は、45分授業、自立活動の時間についても検証します。校務分掌の再編についての検証も行います。次の協議会ではそちらについてもお話いたします。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。